

令和6年8月25日(日)

臨空第2公園基本計画（案） 説明会

豊山町 産業建設部 防災拠点推進室

臨空第2公園基本計画（案）の構成

- 第1章 計画の背景・目的
- 第2章 臨空第2公園の役割・機能
- 第3章 アリーナの施設計画
- 第4章 賑わい施設の施設計画
- 第5章 付帯施設・設備の計画
- 第6章 施設配置・外部動線計画
- 第7章 臨空第2公園の整備イメージ
- 第8章 臨空第2公園の整備手法
- 第9章 整備スケジュール

第1章 計画の背景・目的①

■整備の背景・目的

- 愛知県基幹的広域防災拠点の整備に合わせて、町内の避難施設が不足する地域の防災能力向上のための避難所を整備、新たな賑わい創出を図る。
- 愛知県防災公園や神明公園と連携した憩いの空間の創出とスポーツやレクリエーション機能の強化、地元商工農業の発展、多世代交流の促進、公共交通の充実などを目指す。

第1章 計画の背景・目的②

■基本計画策定の流れ

豊山町避難所・賑わい施設基本コンセプト（案）

検討会議

臨空第2公園基本計画（案）

パブリックコメント

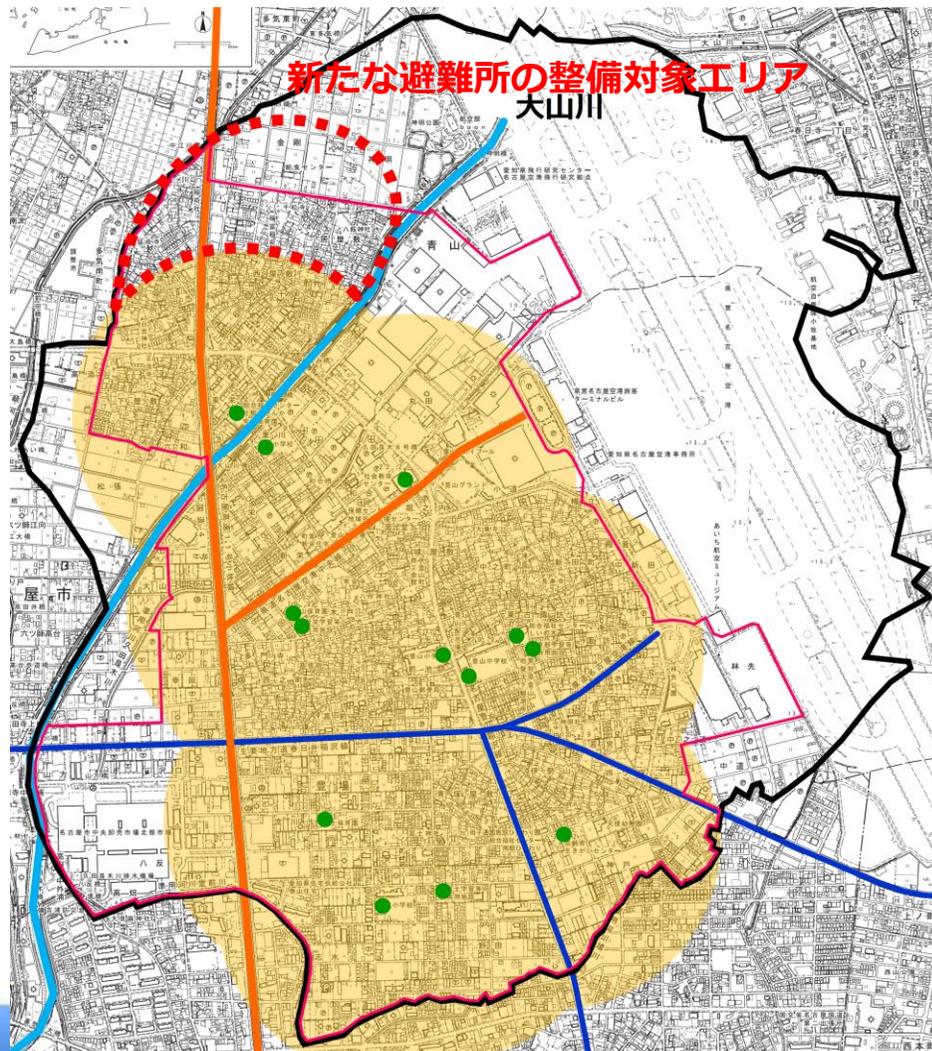
臨空第2公園基本計画

臨空第2公園の設計・建設

臨空第2公園の供用開始

第1章 計画の背景・目的③

■ 避難所の必要性



凡例	
	行政区域
	市街化区域
	第一次緊急輸送道路
	第二次緊急輸送道路
	避難所
	避難所から500m

第1章 計画の背景・目的④

■ 避難所の収容人数



	豊場地区 (大山川南側)	青山地区 (大山川北側)	合計
人口	12,824 人	3,047 人	15,871 人
現状の指定避難所 想定収容人数※2	4,330 人	300 人	4,630 人
現状の充足率	34%	10%	29%

豊場地区(大山川南側)と同水準(34%)の充足率とするため
新たな避難所の 想定収容人数は700人と設定

第1章 計画の背景・目的⑤

■ 3つの基本コンセプト及び基本方向

基本コンセプト① 災害時の安心を守る

被災した地域住民の安心安全を確保するために必要となる防災機能の強化

- 【基本方向】
- ・ 災害時に700人の避難者を収容できる施設
 - ・ 電気、水道等が遮断されても機能する施設
 - ・ 豊山町の災害対応力の強化
 - ・ 消防学校と連携した日常的な防災訓練・学習の実施

基本コンセプト② 暮らしの憩いと潤いを高める

町民・来場者の暮らしを豊かにする場としてスポーツ機能、健康増進機能、憩いと交流機能を提供

- 【基本方向】
- ・ スポーツ・健康増進機能の提供
 - ・ 施設利用者の交流と居心地の良さを提供する施設
 - ・ 子どもから高齢者まで多世代が楽しめる施設
 - ・ 公共交通の充実

基本コンセプト③ まちの魅力を発信する

豊山町の新たなまちの魅力創出のための都市機能整備と県営名古屋空港をはじめとする町の資源との相乗効果を生み出す魅力発信

- 【基本方向】
- ・ 町民、地域事業者、JA等と連携したアンテナショップ等の展開
 - ・ 愛知県防災公園及び神明公園と一体となり様々な大会・イベントが開催できる空間と施設整備
 - ・ 基本方向：カフェ等の飲食施設の整備

■災害時の役割・機能

① 一時的な避難場所としての役割

- 一時避難場所
- 救援活動の拠点
- 帰宅困難者などの一時滞在施設（滞在場所）

② 避難所としての役割

- 安心安全な避難生活空間
- 避難スペース
- ライフライン
- 良好な生活環境
- 多様な避難生活ニーズへ対応した空間
- 感染症対策を講じた空間

第2章 臨空第2公園の役割・機能②

■ 災害時の役割・機能

③ 車中泊避難者や在宅避難者への支援場所としての役割

- 生活物資支援拠点
- 車中泊避難者などのスペース

④ 避難所を管理運営する場所としての役割

- 管理・運営スペース
- 災害情報取得や救援要請に必要な情報通信

■ 平常時の役割・機能

① スポーツ、健康増進のための場所

- スポーツ機能の整備
- 健康増進機能の整備

② 地域・世代関係なく人々が憩い・交流できる場所

- 多世代交流を促進する空間の整備
- 気軽に利用できる憩いの場の整備
- 交通結節点の整備

③ 町の魅力を発信する場所

- 地域の魅力発信機能の整備
- 周辺施設と連携を想定した空間の整備

第3章 アリーナの施設計画①

■ 導入機能の考え方

■ アリーナ機能

- 平常時：子どもから大人までの多世代が元気にスポーツを楽しみ、多世代交流を図る
- 災害時：被災した地域住民の安心安全を確保できる避難所機能

■ その他の機能

- ヨガ、エクササイズ、音楽練習などができるスタジオ
- 子育て世代の需要を考慮したキッズスペース
- 子どもから高齢者まで多世代が集うラウンジスペース
- トレーニングルーム
- 会議室
- ランニングコース

第3章 アリーナの施設計画②

■避難所としてのアリーナ

■避難所の必要規模

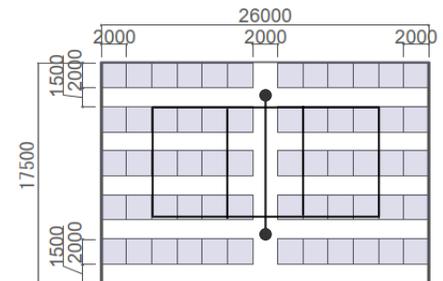
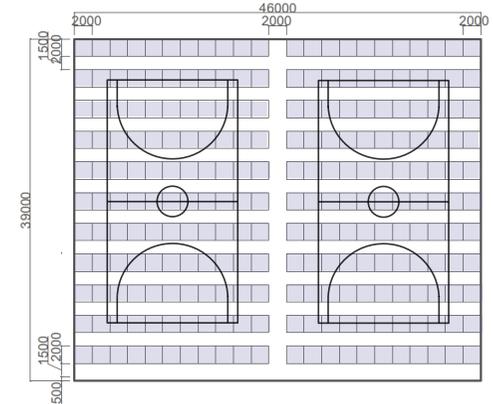
- 一人当たりの避難スペースは 3.5m^2 （生活スペース 2.0m^2 、通路 1.5m^2 ）

■メインアリーナの収容人数

- 縦22張り×縦11張り=242張り
- 242張り×2人=484人(2名用テントの想定)
- ※テント前の通路(1.5m)を含む

■サブアリーナの収容人数

- 縦5張り×縦12張り=60張り
- 60張り×2人=120人(2名用テントの想定)
- ※テント前の通路(1.5m)を含む



第3章 アリーナの施設計画③

■避難所としてのアリーナ

■コミュニティスペース・多目的スペース

- レンタルスタジオ、キッズスペース、ラウンジスペース、多目的室、トレーニングルームの5つの諸室

■コミュニティスペース・多目的スペースの収容人数

- 要配慮者100人が避難可能なスペース（約350m²）
- 発熱や咳などの症状を伴う避難者のためのスペース・相談室等（約350m²）

第3章 アリーナの施設計画④

諸室の機能・規模

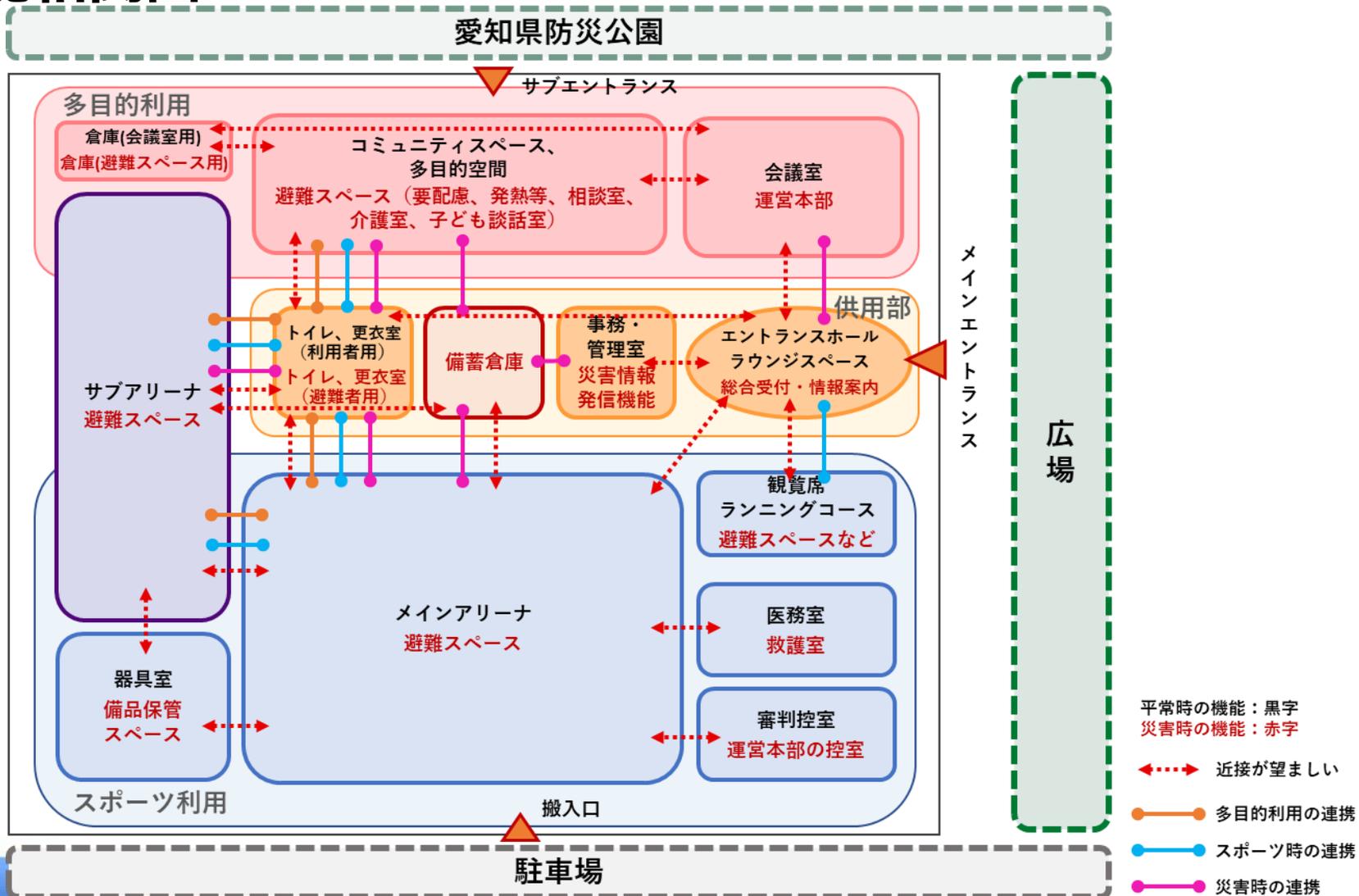
諸室名	機能の変化		計画面積 (㎡)
	平常時	災害時	
メインアリーナ	スポーツ、催事などの利用ができるスペース	一般避難スペース	1,800
サブアリーナ	スポーツだけでなく多目的な利用ができるスペース	一般避難スペース	440
コミュニティスペース・多目的スペース	レンタルスタジオ	利用者がレンタルして、運動教室などが開催できるスペース	700
	キッズスペース	小さな子どもが遊べるスペース (親子の利用も可能)	
	ラウンジスペース	利用者の休憩や交流スペース	
	多目的室	地域交流のイベントなど多目的に利用できるスペース	
	トレーニングルーム	地域住民や選手などがトレーニングで利用できるスペース	
エントランスホール	施設に出入りする利用者の滞留スペース	総合受付、情報掲示板	500
医務室	施設利用者の救護スペース	救護スペース(救護室)	25
会議室、控室	会議や選手の待機スペース	運営本部	100

第3章 アリーナの施設計画⑤

諸室名	機能の変化		計画面積 (㎡)
	平常時	災害時	
更衣室（男女別室）	スポーツ利用者などの着替えスペース	避難者などの着替えスペース	160
器具室	スポーツに利用する器具の保管スペース	災害時の備品などの保管スペース	340
観覧席（2F）	大会、催事の観覧スペース	一時的な待機場所や避難スペース	150
ランニングコース（2F）	ランニングやジョギングができるスペース		540
審判控室	審判員の待機、休憩スペース	運営本部の控室	35
事務・管理室	施設管理者などの事務スペース	災害情報発信機能	100
倉庫（2F）	会議室などの什器・備品の格納スペース	避難スペースを確保するための什器・備品の格納スペース	30
備蓄倉庫	水、食品、生活必需品などの物資の備蓄スペース		180
機械室	照明や空調設備などの稼働に必要な設備機器の設置スペース		400
供用部（廊下・階段・エレベーター・トイレなど）	—	※トイレは一般避難者用、要配慮者用、発熱・咳などの症状が出た避難者用	1,300
合計			6,800

第3章 アリーナの施設計画⑥

機能相関図



第4章 賑わい施設の施設計画

■ 導入機能の考え方

分類	導入機能	最大建築可能面積 (㎡)
賑わい施設	カフェ・レストランなどの飲食機能	約 3,000
	マルシェなどの物販機能	
	屋内子ども遊び場	
	管理事務所	
	屋外用倉庫	
	供用部（廊下、倉庫、トイレなど）	
その他	広場	
	遊具	

第5章 付帯施設・設備の計画①

■ 付帯施設の計画

分類	付帯施設
公園の付帯機能	屋根付き回廊
	屋外トイレ
	駐車場
	駐輪場
	交通結節点

■ 駐車場

施設		駐車場台数（台）	必要面積(m ²)	備考
駐車場	アリーナ利用者用	240	約 13,000	駐車スペース、車路、バスなどの停留所などを含む面積
	賑わい施設利用者用	50		
	施設管理業者用	20		
	計	310		

第5章 付帯施設・設備の計画②

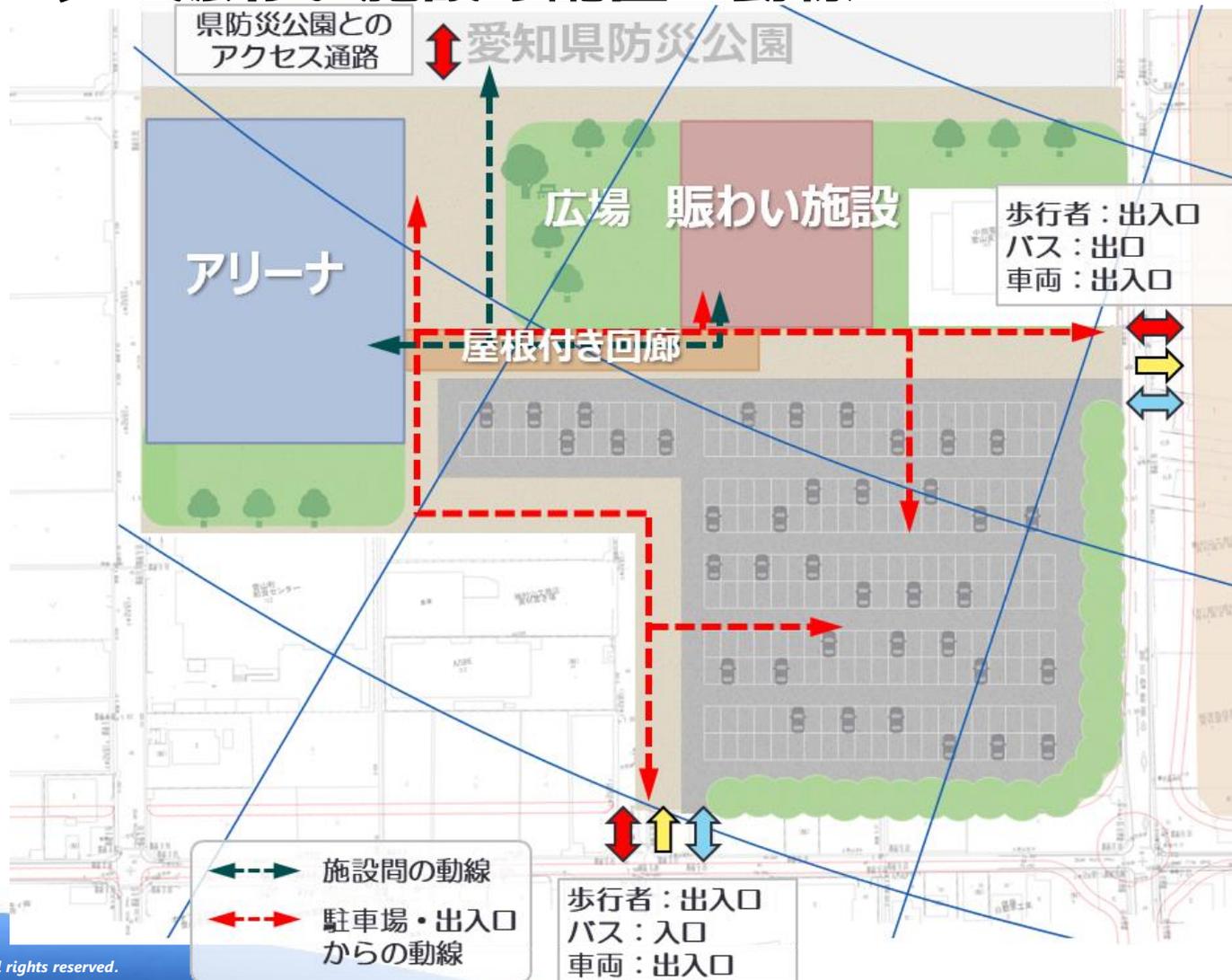
■付帯施設（防災設備）

分類	付帯設備	
防災設備	マンホールトイレ	防災井戸
	耐震性貯水槽	パーゴラテント
	かまどベンチ	自家発電設備
	ソーラー照明灯 (非常用電源機能付)	太陽光発電設備 蓄電池



第6章 施設配置・外部動線計画①

■アリーナ・賑わい施設の配置・動線



第6章 施設配置・外部動線計画②

■アリーナ・賑わい施設の配置・動線



第7章 臨空第2公園の整備イメージ① 平常時

メインアリーナ



出典：(公財)名古屋市教育スポーツ協会 HP

インクルーシブ遊具



出典：㈱コトブキ HP

広場 (マルシェなど)



出典：Hisaya-odori Park HP

賑わい施設 (飲食・物販など)



出典：日経BP HP

屋内ランニングコース



出典：さわやかアリーナ袋井市総合体育館 HP

屋内子ども遊び場

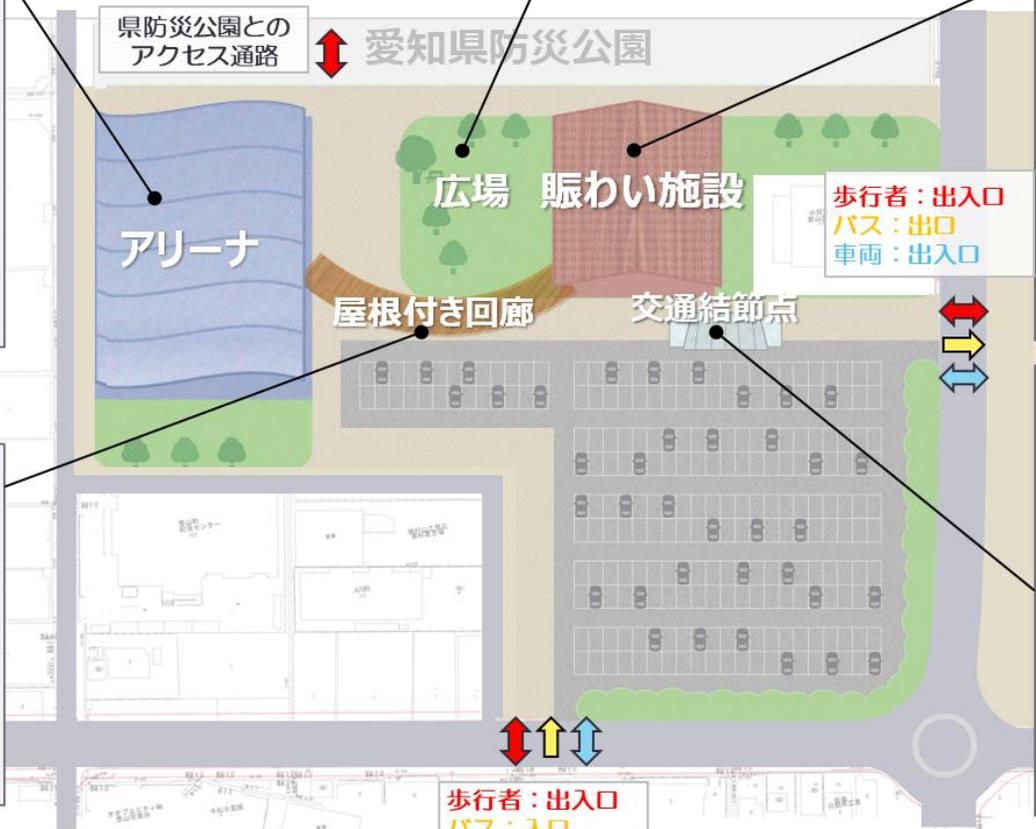


出典：さわやかアリーナ袋井市総合体育館 HP

屋根付き回廊



出典：日本建築写真家協会 HP



歩行者: 出入口
バス: 入口
車両: 出入口

歩行者: 出入口
バス: 入口
車両: 出入口

交通結節点



モビリティスペース
出典：㈱Luup HP

電気自動車の充電設備
出典：中越大栄工業㈱ HP

第7章 臨空第2公園の整備イメージ②災害時

避難所



出典：豊山町「避難所・賑わい施設」に関する都市計画 説明会資料

物資搬入スペース（ひさし）



出典：（一般社団法人）日本建設業連合会 HP

かまどベンチ



出典：PARKFUL HP

マンホールトイレ



出典：国土交通省 HP

要配慮者用スペース

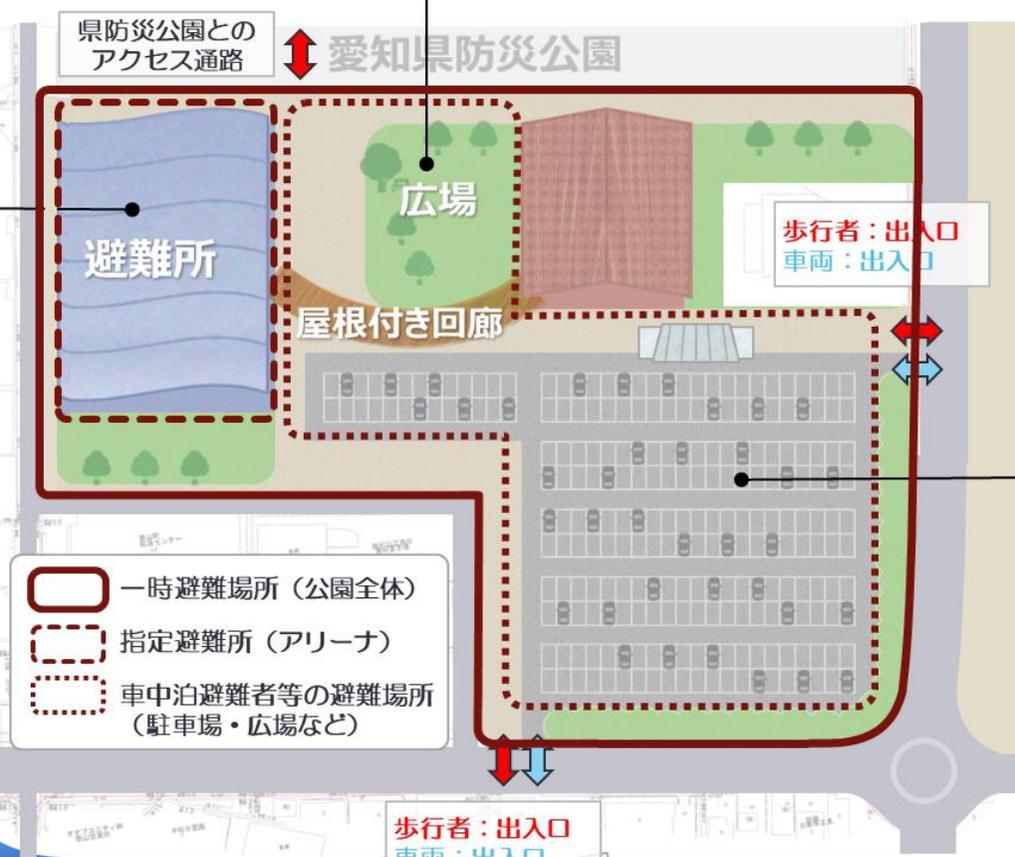


出典：内閣府「令和6年能登半島地震における避難所運営の状況」

備蓄倉庫



出典：日本ファイリング株式会社 HP



青空避難スペース



出典：デイリースポーツ新聞

耐震性貯水槽



出典：けんせつPlaza HP

第8章 臨空第2公園の整備手法①

■ 一般的な公共施設の整備手法

手法	通常発注	主な PPP 手法		
		設計・施工一体発注 (DB ^{*4} 発注)	PFI的手法	
			Park-PFI ^{*5} 発注	PFI発注
契約イメージ	<p>町 契約↕ 契約↕ 契約↕ 設計 → 施工 → 維持管理</p>	<p>町 DB契約↕ 契約↕ 設計 → 施工 → 維持管理</p>	<p>町 契約↕ 設計 → 施工 → 維持管理 運営 民間純収益施設 (カフェなど)</p>	
	設計、施工、維持管理の各段階で本町が個別発注	設計、施工を一体的に発注し、維持管理を個別発注	設計、施工、維持管理、運営を一体的に発注	
特徴	公共施設における福利厚生 の充実などの範囲内 で、本町が負担し 施設を設置・運営は可能 ※民間資金・ノウハウでの 設置運営は不可	公共施設における福利厚生 の充実などの範囲内 で、本町が負担し 施設を設置・運営は可能 ※民間資金・ノウハウでの 設置運営は不可	「民間資金を活用して施設整備を行う」という手法のため、民間事業者が独自に飲食・物販施設などの賑わい施設を設置・運営が可能	
参考事例	—	愛知県 大規模展示場 (Aichi Sky Expo) ^{*6} 	名古屋市 名城公園 (トナリノ) ^{*7} 	愛知県 森林公園ゴルフ場 (ウッドフレンズ)

第9章 整備スケジュール

■ 通常発注を導入した場合の想定スケジュール

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
公募・発注	発注	発注	発注		
設計・建設	基本設計 (約10ヶ月)	実施設計 (約10ヶ月)		建設 (約2年)	
維持管理 ・運営					維持管理 ・運営

供用開始

■ PFI的手法を導入した場合の想定スケジュール

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
公募・発注	公募 (約1.2年)				
設計・建設			設計・建設 (約3年)		
維持管理 ・運営					維持管理 ・運営

供用開始

計画策定に向けたスケジュール

■パブリックコメント

■期間

令和6年9月3日（火）～17日（火）

■閲覧場所

- ・ 町公式ホームページ
- ・ 役場1階情報公開コーナー
- ・ 防災拠点推進室窓口

■問合せ

産業建設部防災拠点推進室（役場2階6番窓口）

電話番号：0568-28-2463

質疑応答